



JASIリサーチメモ

R6-07号：2025年1月22日

中国におけるロケット軍建設

－シリーズ③－南部戦区の組織編成及び部隊所在地について

防衛戦略研究室 防衛事務官 千綿 るり子

－項 目－

1 趣 旨

2 ロケット軍南部戦区の概要

- (1) 概 要
- (2) 南部戦区配備のミサイル

3 第62基地及び第63基地の組織編成及び部隊所在地

- | | | |
|-----------------------|-------------------|-----------------------|
| ① 中国軍の組織編成図 | ② ロケット軍部隊の編成 | ③ ロケット軍第62基地(96602部隊) |
| ④ 第621旅団(96721部隊) | ⑤ 第622旅団(96722部隊) | ⑥ 第623旅団(96723部隊) |
| ⑦ 第624旅団(96724部隊) | ⑧ 第625旅団(96725部隊) | ⑨ 第626旅団(96726部隊) |
| ⑩ 第627旅団(96727部隊) | ⑪ 訓練連隊(96821部隊) | ⑫ 通信連隊(96822部隊) |
| ⑬ 作戦保障連隊(96823部隊) | ⑭ 総合保障連隊(96824部隊) | ⑮ 装検旅団(96032部隊) |
| ⑯ ロケット軍第63基地(96603部隊) | ⑰ 第631旅団(96731部隊) | ⑱ 第632旅団(96732部隊) |
| ⑲ 第633旅団(96733部隊) | ⑳ 第634旅団(96734部隊) | ㉑ 第635旅団(96735部隊) |
| ㉒ 第636旅団(96736部隊) | ㉓ 訓練連隊(96831部隊) | ㉔ 通信連隊(96832部隊) |
| ㉕ 作戦保障連隊(96833部隊) | ㉖ 総合保障連隊(96834部隊) | ㉗ 勤務連隊(96835部隊) |
| ㉘ 装検連隊(96033部隊) | | |

4 評 価

1 趣 旨

本資料は、「中国におけるロケット軍建設」に関して、「シリーズ②東部戦区の組織編成及び部隊所在地について」に続き、南部戦区の組織編成及び部隊所在地についてまとめたものである。作成に際しては東部戦区同様、公開情報(*1)により旅団レベルまではその所在地を確認できたが、大隊レベル以下の細部編成についてはその確認が難しいことから、米空軍の中国航空宇宙研究所(CASI)発表の「人民解放軍ロケット軍の組織」(*2)に従いまとめた。

2 ロケット軍南部戦区の概要

中国ロケット軍は中国全土に9か所の基地を有しており(*3)、その内、南部戦区(基本的に広東省、江西チワン族自治区、海南省、雲南省、湖南省、貴州省、香港、マカオ)には、第62基地及び第63基地が存在している。

(1) 概 要

ア 第62基地

ロケット軍第62基地の前身組織となる第53基地の指揮部は、1966年6月(第2砲兵創設日:1966/7/1)、304工程指揮部(122部隊)として設立されており、1968年2月以降、雲南省の建水県に進駐してミサイル陣地建設に従事しており、1968年5月25日、正式に第53基地と改称された(*4)。

習近平主席は、2015年初の部隊視察として昆明駐屯部隊を訪れているが、その際、陸軍第14集団軍のほか、この第53基地を訪れていた(*5)。この53基地はその後、2015年末以降の軍改革の断行に伴い、第53基地から現在の第62基地へと改編されている。

イ 第63基地

ロケット軍第63基地の前身組織となる第55基地の指揮部は、1966年8月、当時の公安幹部学校をベースとして306工程指揮部(125部隊)として設立されており、53基地と同様に1968年5月25日、正式に第55基地と改称され(*6)、2015年末以降の軍改革の断行に伴い、第55基地から第63基地へと改編されている。



出典:『中国網』2018/8/18



ロケット軍の肩章

出典:『中国網』2018/8/18

* 1:温翊瑟「中国人民解放军基地及び施設」https://umap.openstreetmap.fr/en/map/by_77487#11/19.7751/110.7003; Decker Eveleth “People’s Liberation Army Rocket Force of Battle 2023” James Martin Center of Nonproliferation Studies Middle Institute of International Studies at Monterey, JULY 2023; 陳振国、杜建明「中共火箭军战术弹道导弹对我军事之威胁与因应对策(中国共産党ロケット軍戦術弾道ミサイルの台湾軍に対する脅威と対策)」『海軍學術隔月刊』第51卷第6期; 陳振国「浅析中共『火箭军』发展与运用(中国共産党『ロケット軍』の発展と運用に関する分析)」『海軍學術隔月刊』第55卷第1期等

* 2:Ma Xiu“PLA ROCKET FORCE ORGANIZATION”China Aerospace Studies Institute,
<https://airuniversity.af.edu/Portals/10/CASI/documents/Research/PLARF/2022-10-24%20PLARF%20Organization.pdf>(August 5, 2024)。以下、CASIレポートと略する。

* 3:『環球時報』2015年9月1日。

* 4:「永遠の『二砲』、中国人民解放军ロケット軍の編成に際して」『歴史資料網』2022年5月19日、<https://lishiziliao.com/zhanshi/34848.html>

* 5:「ミサイル強靱旅団」、第二砲兵第53基地政治委員、司令員が続けて交代」『澎湃新聞網』2015年4月3日、

<https://web.archive.org/web/20171008180806/http://news.163.com/15/0403/16/AM9PNQN200014SEH.html>

* 6:同上

(2) 南部戦区配備のミサイル

ここで、南部戦区に配備されているとみられるミサイルについて概観する。

ア「東風-5」(「DF-5」。液体燃料式大陸間弾道ミサイル。発射形式:地下サイロ)シリーズ

まず、「DF-5」シリーズについてである。「DF-5」は、中国第1世代の大陸間弾道ミサイルであり、1965年3月に研究開発が決定され、1971年9月10日に発射試験に成功し、1980年5月18日に酒泉衛星発射センターから発射され太平洋海域での着弾に成功した(*7)。1984年10月1日の建国35周年軍事パレードで初披露されており、中国初の「DF-5」ミサイル旅団として第803旅団(現在の631旅団)が編成された(*8)。

諸元は、全長32.6m、直径3.35m、射程1.2万km(DF-5Aは1.5万km)であり、4~5発の弾頭を搭載可能とされる(*9)。

初披露前年の1983年11月には、「DF-5」の改良型となる「DF-5A」の開発が開始されており、2000年頃には第801旅団、第803旅団及び第814旅団で「DF-5A」への換装が行われたという。2015年9月3日の反ファシスト戦争勝利70周年軍事パレードにおいて「DF-5B」が披露され、同9月29日、「DF-5B」の夜間試射が行われたと報じられた。

2017年1月には「東風-5C」の試射が行われており、中国の軍事専門家が「環球時報」の記者に説明したところによれば、「DF-5C」の試射は、「DF-5」の多弾頭化により攻撃威力の向上を目的としたものであったという。固体燃料ミサイルでは、核弾頭10発を搭載して1万kmを飛行させることは難しいが、「DF-5C」であれば、核弾頭10発を搭載できるとされる(*10)。

イ「東風-31」(「DF-31」。固体燃料式大陸間弾道ミサイル。発射形式:TEL(8軸)又は地下サイロ)シリーズ

次に、「DF-31」シリーズについてである。「DF-31」は、中国初の固体燃料式長距離弾道ミサイルであり、中国第2世代の戦略兵器となる。開発に際しては当初1970年代、第2世代の戦略兵器として液体燃料の移動式長距離ミサイル「DF-22」の開発が正式にプロジェクトとして立ち上がるも途中で中止され、その成果が新型長距離ミサイル「DF-31」へと引き継がれており、「DF-31」は前の世代の「DF-5」と比較すると、攻撃精度や残存性、防御突破能力等が向上したとされる。

この研究開発は中国航空集团公司、第2砲兵、その他研究機関と共同で行われており、1992年4月29日に最初の試射が行われ、1993年3月に第2砲兵による装備が始まり、1999年10月1日の軍事パレードで初披露された。

諸元は、全長13m、直径2.25m、射程8,000km(DF-31Aは10,000km)、発射準備 時間10~15分である(*11)。

その後、「DF-31」の改良型となる「DF-31A」が2015年9月3日、反ファシスト戦争勝利70周年軍事パレードで初めて公式に披露されており、射程が延び、機動力や情報化レベルが向上したとされる(*12)。

「DF-31」シリーズの最新型となる「DF-31AG」は、2017年7月30日の中国軍創設90周年軍事パレードで初めて披露されており、最大射程は約12,000kmである(*13)。

*7:「『8年4弾』の青写真が指す方向」『中国航天科技集团公司H.P.』2016年9月30日。

*8:「中国には東風41があるのに、なぜ東風5をさらに発展させるのか。専門家が真相を語る」『新華網』(『環球時報』の転載)2017年2月6日。
https://xinhuane.com/mil/2017-02/06/c_129468887.htm

*9:「東風5C」の威力は如何に強いか(「科技日報」の転載記事)『新華網』2017年2月12日、https://xinhuane.com/politics/2017-02/12/c_1120450991/htm

*10:上記8に同じ。

*11:「東風-31大陸間弾道ミサイル」『中国網』2024年11月13日閲覧。https://china.com.cn/military/node_7163488.htm

*12:「東風-31固体燃料大陸間弾道ミサイルが天安門広場を通過」『人民網』2015年9月3日。<https://politics.people.com.cn/n/2015/0903/c398090-27543508.html>

*13:「ロケット軍が発射した大陸間弾道ミサイルの画面を披露」『大公報』2024年9月27日。<https://takungpao.com/news/232108/2024/0927/1015093.html>

ウ 「東風-41」(「DF-41」)。固体燃料式大陸間弾道ミサイル。発射形式:TEL(8軸)又は地下サイロ)シリーズ

「DF-41」は、「DF-5」の後継として1984年にプロジェクトとして立ち上げられ、1994年に高軌道飛行の試射に成功し、1999年にコンピュータシミュレーションで米国本土への試射に成功していた(*14)。

中国のミサイル技術や核戦略の専門家である楊承軍は2017年11月26日、中国国営放送「中央電視台」において、「DF-41」は中国第4世代の戦略ミサイルであり、現在配備するまで最終段階にあり、2018年初めにも配備されるであろうと語っていた。

諸元は、ミサイルの長さ16.5m、直径2.78m、射程1.2万km以上である(*15)。

その後、2019年10月の建国70周年軍事パレードにおいて初披露されている。

エ 「長剣-10」(「CJ-10」)。巡航ミサイル。核弾頭・通常弾兼備)シリーズ

「CJ-10」は当初、1996年の台湾海峡危機を受け、米軍の介入を阻止すべく海軍の対艦ミサイル部隊に装備することを想定して1998年頃に開発が開始されており、かつては「東海-10」と命名されていたが、その後仕様変更がなされ、「長剣-10」と改称された。

2001年に最初の試射が行われ、2006年9月20日に第2砲兵への配備式典が行われ、2009年10月1日の建国60周年軍事パレードにおいて、地上配備型の巡航ミサイル梯隊として初披露された(*16)。

諸元は、ミサイルの長さ8.3m、直径0.68m、速度マッハ0.75、射程1,500kmである(*17)。

「CJ-10」の改良型となる「CJ-10A」は、2015年9月の軍事パレードにおいて、戦略打撃部隊通常ミサイル第3梯隊として初披露されている(*18)。

オ 「東風-21」(「DF-21」)。固体燃料式中距離弾道ミサイル。発射形式:TEL(6軸))シリーズ

「DF-21」は、潜水艦発射弾道ミサイル「巨浪-1」(「JL-1」)の地上配備型であり、中国第1世代の地上配備型固体燃料式中距離弾道ミサイルである。1999年の建国50周年軍事パレードで披露されており、「DF-21A」(第2世代)、「DF-21C」(第3世代)、「DF-21D」(第4世代)までである。

この内、対艦弾道ミサイルの「DF-21D」は、2015年9月の軍事パレードで初披露されており、核弾頭及び通常弾頭の両方を装備できるとされ、米側からは「空母キラー」とも称されている(*19)。

カ 「東風-16」(「DF-16」)。固体燃料式中距離弾道ミサイル。発射形式:TEL(5軸))シリーズ

「東風-16」は、2015年9月の軍事パレードで初披露されており、第1列島線上の米軍基地や日本本土に狙いを定めたものと言われており、DF-15とDF-21の隙間を埋めるものとされる。諸元は明らかにされていないが、外形から、ミサイルの長さはDF-15より長く、直径1.2m、最大射程は1,500kmとも言われる(*20)。

*14:「東風4、対ミサイルシステムの『戦略の錐』を突破」『人民網』2012年9月26日。

*15:「中央電視台、中国の大陸間弾道ミサイルDF-41の一部技術が米露を超えると公表」『中国科技網』2017年11月27日、http://stdaily.com/index/kejixinwen/2017-11/27/content_600865.shtml

*16:「軍迷の目に映る『長剣-10』巡航ミサイル」(『兵器知識』記事の転載)『中国軍網』2014/2/17、http://www.81.cn/bqtd/2014-02/17/content_5772092.htm

*17:同上

*18:「中国中央電視台が『長剣-10』巡航ミサイルの攻撃画面を公表」『新華網』2015/10/13

*19:「高清:『空母キラー』東風-21D対艦弾道ミサイル」『新華網』2015年9月6日、https://xinhuane.com/mil/2015-09/06/c_128198622_2.htm

*20:『「沖縄への速達」:東風16ミサイルの少なからぬ特技」(『国防教育週刊』記事の転載)『長沙晚報』2023年6月12日。

https://www.icswb.com/newspaper_article-detail-1789962.html

(3) 第62基地における注目事象

中国国防部は2024年9月25日、中国軍ロケット軍が同日8時44分、太平洋海域に向けて訓練用模擬弾頭を搭載した大陸間弾道ミサイル1発を発射し、予定海域への正確な投入に成功したと発表した(*21)。中国がこれより前に大陸間弾道ミサイルを発射したのは1980年5月であり、この時は「DF-5」を長距離ロケット砲と称し、中国西部の酒泉発射センターから南太平洋に向けて試射を実施しており、44年振りの太平洋に向けてのICBM発射であった。

これについて一部メディアではその飛行経路から、海南省文昌市付近から発射され、約27分間飛行した後、ハワイ南方の日付変更線付近の公海に着弾しており、総飛行距離は11,700kmに達したとも報じられた。

また、発射されたミサイルは、「DF-31」であれば事前に発射陣地で準備を必要とするが、「DF-31AG」であればわずかに平らな部分があれば発射可能であることから、ミサイルは「DF-31AG」であったと評価されている。さらにミサイルは、ロケット軍の第62基地第621旅団から広東省の湛江まで機動し、そこからロケット運搬船で文昌の発射基地まで輸送し発射場まで再び機動したという(*22)。

この第621旅団についてGoogle Earthで確認したところ、特徴的な配置の施設が認められ、「DF-31AG」特有の施設であることが考えられる。この点については、後述する。



3 第62基地及び第63基地の組織編成及び部隊所在地等

7 頁以降の①から⑳に示すとおり。

*21:「国防部、ロケット軍が太平洋の公海海域に向けて大陸間弾道ミサイル1発を成功裏に発射」『中国国防部H.P.』2024年9月25日。

*22:「中国軍ロケット軍が西太平洋海域にむけて東風-31AG型大陸間弾道ミサイルを発射した意図」『中共研究雑誌社Institute of Chinese Communist Studies』2024年9月27日、<https://iccs.org.tw/NewsContent/254>

4 評 価

第62基地のミサイルは、その位置関係から主として東南アジアや南シナ海方面へ向いていると考えられる。具体的には、単純にミサイルの射程からみていくと、第622旅団はハワイまで射程内に入り、第623旅団は東南アジアや台湾、第625旅団は東南アジアや南アジア、第626旅団はグアム、第627旅団はフィリピンや沖縄及び当該地域の米軍基地向けと考えられる。

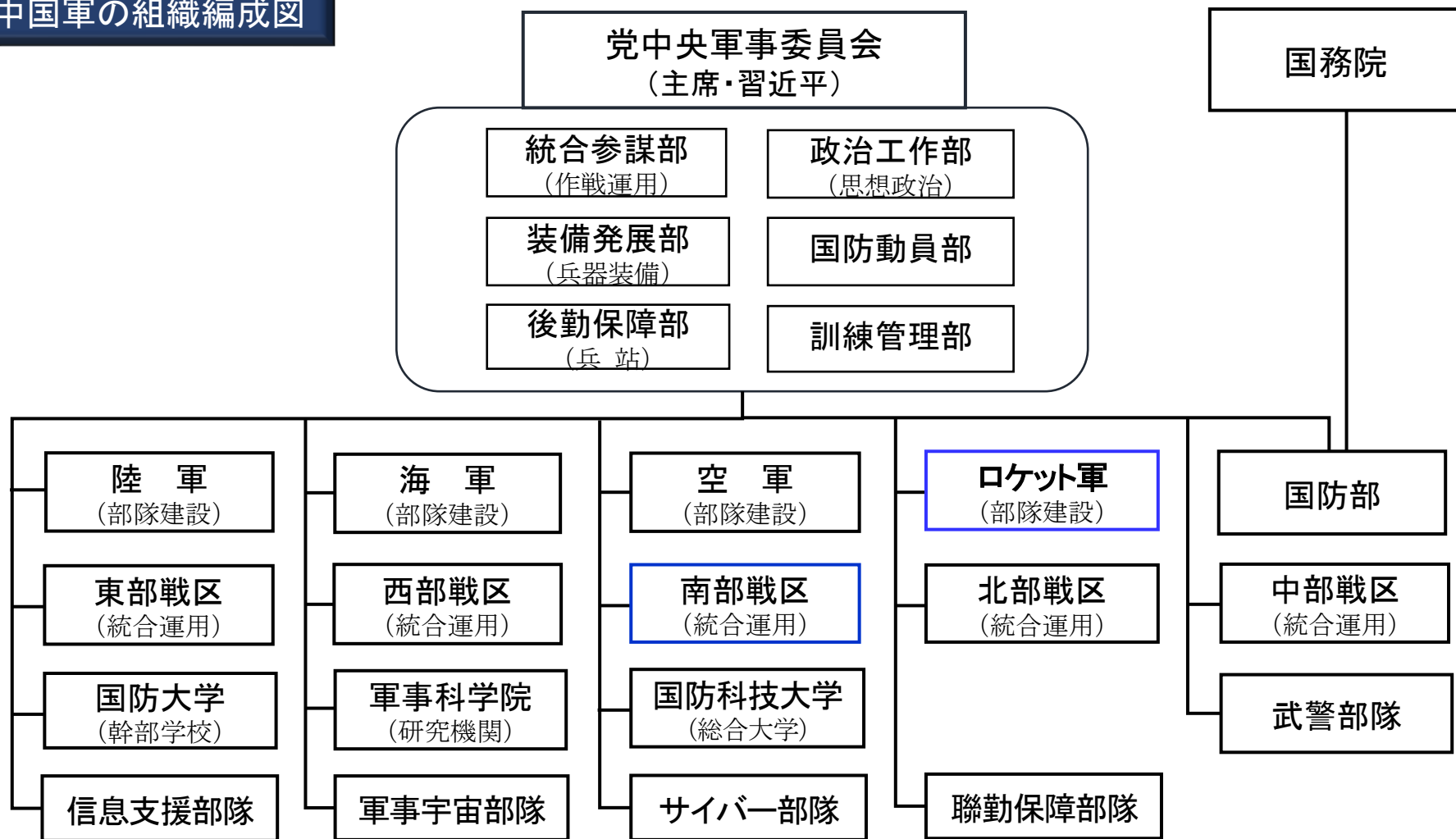
また、第624旅団のDF-21Dは対艦ミサイルであるため、南シナ海方面向けと考えられる。



第63基地のミサイルは、主として米国本土向けと考えられる。具体的には、第631旅団、第632旅団、第633旅団、第634旅団のほか、第62基地の第621旅団まで含め米国本土まで射程に入る。第635旅団や第636旅団は、フィリピンや日本の一部及び当該地域の米軍基地向けと考えられる。

第62基地及び第63基地のミサイル旅団司令部は、第633旅団を除きいずれも近年施設が新設又は増設されている状況が確認される。特に、最近新設された第621旅団や第624旅団には、米国や南シナ海向けのみサイルが配備されており、これらの地域は中国が最近警戒しているところと捉えられる。

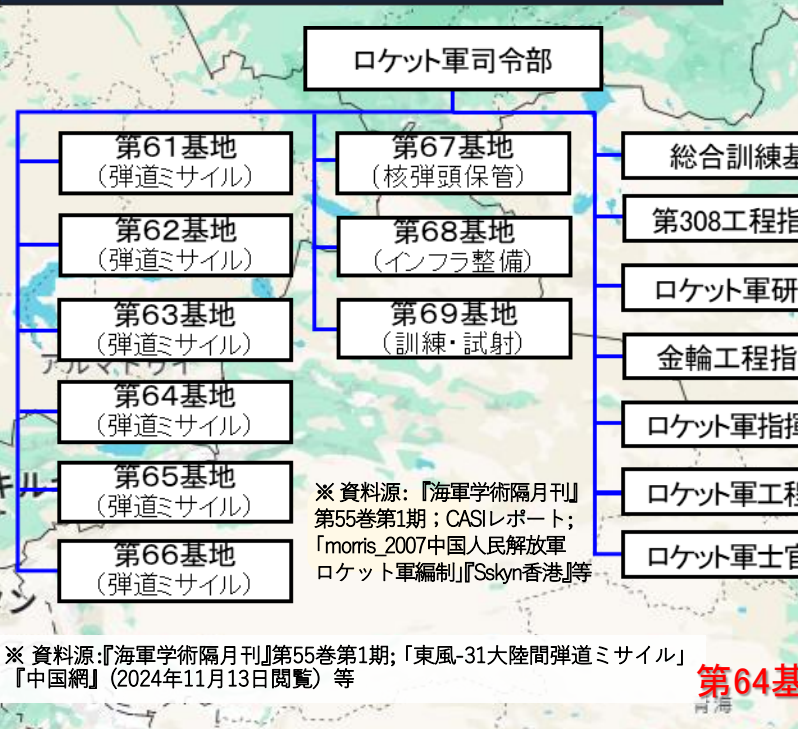
① 中国軍の組織編成図



中国人民解放軍全体の組織編成については、中央軍事委員会(主席:習近平)の下に、各軍種(陸・海・空・ロケット)、各戦区(東部・西部・南部・北部・中部)等が同じ並びで置かれ、それぞれが中央軍事委員会から直接指揮・指導を受ける体制がとられている。

この内、中国において核兵器やミサイルの運用を担当してきた第2砲兵は2015年末、第2砲兵からロケット軍へと改称され、陸・海・空軍と並ぶ軍種へ格上げされている。

② ロケット軍部隊の編成及び所在地



※ 資料源:『海軍学術隔月刊』第55巻第1期;「東風-31大陸間弾道ミサイル」『中国網』(2024年11月13日閲覧)等

飛行距離	ミサイル	弾頭の種類
SRBM (短距離)	DF-11A(500km)	通常弾頭
	DF-15B(600km)	通常弾頭
MRBM (中距離)	DF-16(1,500km)	通常弾頭
	DF-17(2,500km)(極超音速滑空)	通常弾頭
	DF-21(3,100km)	核弾頭
IRBM	DF-26(4,000km)	核弾頭・通常弾頭
ICBM (大陸間)	DF-5A(13,000~15,000km)	核弾頭
	DF-31(8,000km)	核弾頭
	DF-31A(10,000km)	核弾頭
	DF-31AG(12,000~13000km)	核弾頭
	DF-41(12,000~15,000km)	核弾頭



ロケット軍部隊は、公開情報(『環球時報』2015年9月1日)によれば、中国全土の9か所の基地、学校等に兵力14万人を有しており、SRBM(通常弾頭)からICBM(核弾頭)まで各種ミサイルを運用しているとみられる。

※出典:世界論壇網(2023/1/13)

※: Google Mapを基に筆者作成

— 凡 例 —
★: 基地司令部
□: 学校所在地

③ ロケット軍第62基地(96602部隊)の編成

旧53基地(旧96201部隊)



南部戦区(広東省、江西チワン族自治区、海南省、雲南省、湖南省、貴州省、香港、マカオ)には、第62基地及び第63基地が存在する。

この内、第62基地(96602部隊)は、第641旅団から第647旅団までを有する。96602部隊の司令部は、公開情報(「昆明市官渡区教育体育系統2023年教師招聘資格試験場所」『雲南考試招聘網』2024/12/28閲覧。 <https://www.ynkszp.net/uploads/ueditor/file/20230729/1690625766171125.xlsx>) から、雲南省昆明市官渡区阿拉街道公家口に所在することを確認できる。同じ敷地内には第62基地の通信連隊、作戦保障連隊、総合保障連隊も所在する。

また、ロケット軍における旅団は、基本的に6個発射大隊、通信大隊、技術大隊、作戦保障大隊、総合保障大隊等から構成される。TEL(ミサイル発射車両)については、大隊で6輜、旅団で計36輜を有し、TEL1輜にミサイル4基を有するとされる(『海軍学術隔月刊』第51巻第6期)。

④ 621旅団(96721部隊)

旧802旅団(96211部隊)

四川省

宜賓★
621旅団
・DF-31AG

地下格納庫(建設中)

土盛り

更地(2011年11月)

Google Earth(Maxar Technologies)
2011/11/9以前

28° 45'36"N 104° 47'35"E (四川省宜賓市翠屏区李莊古鎮31号)

第621旅団司令部

本部

高層建屋

交互に配置の車庫

Google Earth(CNES/Airbus) 2022/9/5以前

昆明★
玉溪★

第62基地司令部

622旅団★
・DF-31A

建水★
625旅団
・DF-26

柳州★
623旅団
・CJ-10A

626旅団★
清遠★
・DF-26

広東省

627旅団★
・DF-17

揭陽★
潮州市
・汕头市

第621旅団(96721部隊)の司令部は、公開情報(『中国人民解放軍96721部隊給湯器入札公告』『湖南省軍民融合公共服务平台』2020/3/2、<https://www.hnimrh.gov.cn/newweb/demand/jddetail/4355>)から、四川省宜賓市翠屏区李莊古鎮31号に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、同司令部は、2011年11月9日時点では更地であり施設そのものが認められないが、2017年5月16日には概成している状況が確認された。温約瑟やCASIによれば、DF-31AG(核弾頭)を装備しているとされるが、DF-31AGは、2017年7月の軍事パレードで初披露されていることから、同旅団は、DF-31AGの装備に伴い新設された施設へと移動してきた可能性も考えられる。

敷地中央には建設中とみられる地下格納庫も確認され、今後核弾頭が保管される可能性も否定できない。

また、2024年9月25日、海南省文昌市の発射場から太平洋へ向けて発射されたミサイルは、この第621旅団から機動したDF-31AGと報じられている(参照:5頁)。Google Earthによれば、当該旅団司令部の敷地において、車庫が交互に配置された特異な施設が認められ、DF-31AG特有の施設である可能性が考えられる。

広西

南宁市

玉林市

海口市

湛江市

海口市

海口市

海口市

海口市

海口市

海口市

海口市

海口市

海口市

海口市

海口市

海口市

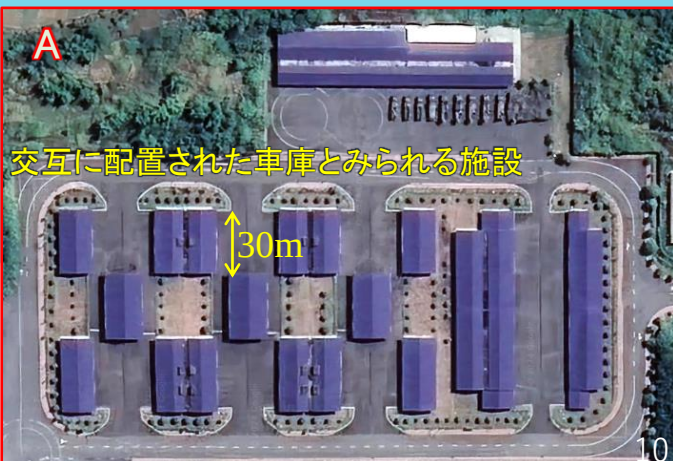
海口市



※: Google Mapを基に筆者作成

ー凡 例ー

★: 旅団司令部



⑤ 622旅団(96722部隊)

旧808旅団(96213部隊)

宜賓★621旅団
・DF-31AG

四川省



Google Earth(Maxar Technologies) 2017/11/10以前



気象観測所

Google Earth(Airbus/CNES) 2024/1/6

第622旅団司令部

気象観測所

本部

高層建屋

増設

高層建屋

24° 21'33"N 102° 29'42"E (雲南省玉溪市紅塔区沙壩综合楼)

柳州

623旅団・CJ-10A

626旅団
清遠・DF-26

広東省

627旅団
・DF-17

揭陽

潮州市
・汕头市

深圳市
・香港
Hong K

陽江市

北海市

湛江市

海口市

儋州

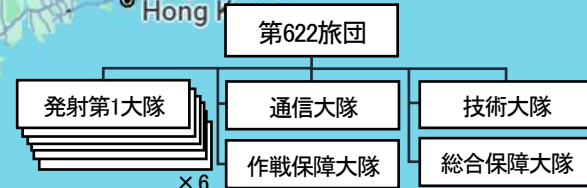
624旅団
・DF-21D

海南

ハノイ
Hà Nội
ハロン
Tp. Hà Long

タンホア
Thanh Hóa

ビン



資料源:CASIレポート87頁

※: Google Mapを基に筆者作成

- 凡 例 -

★: 旅団司令部

2015年9月の軍事パレードで披露の「DF-31A」



出典:『国家国防科技工業局H.P.』(新華社報道の引用)

第622旅団(96722部隊)の司令部は、公開情報(「中国人民解放軍96722部隊副食品供給社入札項目」『荣成市軍民融合公共網』2024/12/31閲覧)から、雲南省玉溪市紅塔区沙壩综合楼に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2018年12月26日時点で敷地内の赤枠で囲った箇所において、施設が増設されている状況が認められた。温約瑟やCASIによれば、DF-31A(核弾頭)を装備しているとされるが、DF-31Aは2015年9月の軍事パレードで初披露されており、施設の増設は、DF-31Aへの換装に伴うものであった可能性も否定できない。

⑥ 623旅団(96723部隊)

旧821旅団(96215部隊)

四川省・DF-31AG
宜賓★621旅団



更地(2016年)

Google Earth (Maxar Technologies) 2016/11/3以前



Google Earth (Airbus/CNES)
2021/10/5

第623旅団司令部

増設 気象観測所

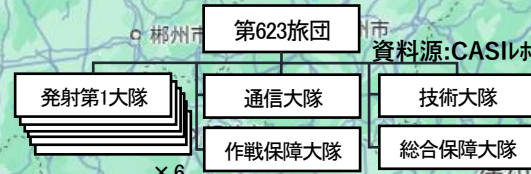
高層建屋

本部

24° 23'11"N 109° 34'18"E (広西チワン族自治区柳州市)

第623旅団(96723部隊)の司令部は、CASIによれば、江西チワン族自治区柳州市魚峰区柳東新区新柳大道27号に所在することを確認できる。温約瑟やCASIによれば、新型巡航ミサイル「長剣-10改」(「CJ-10A」)を装備しているとされるが、CJ-10は2006年9月20日に正式に第2砲兵に配備されており、CJ-10Aは2015年9月の軍事パレードで初披露されている。

Google Earthによれば、2016年11月3日時点では同司令部周辺は更地であったが、2019年9月24日時点で気象観測所等が増設され、施設が拡大している状況が認められた。



資料源:CASIレポート188~89頁

★623旅団
柳州・CJ-10A

★626旅団
清遠・DF-26

★627旅団
揭陽・DF-17

★624旅団
儋州・DF-21D

※: Google Mapを基に筆者作成



「CJ-10A」

出典:『人民網』2015/10/12

中国航天科工集团第三研究院钳工 冯鹏

如果咱的东西现在比人家就是强

— 凡 例 —
★: 旅団司令部

⑦ 624旅団(96724部隊)

旧828旅団(96219部隊)

621旅団
宜賓
・DF-31AG

四川省

第614旅団

通信大隊

作戦保障大隊

総合保障大隊

技術大隊

不明大隊

鋼銃中隊

鉄血中隊

狼鷹中隊

発射第1大隊

x 6

資料源:CASIレポート90~91頁

第62基地司令部

昆明

玉溪

622旅団

・DF-31A

建水

625旅団

・DF-26

雲南省

更地(2016年)

着工(2017年)

Google Earth(Maxar Technologies/ CNES/Airbus) 2021 /2/15以前

第624旅団司令部

本部

高層建屋

気象観測所

19° 28'10"N 109° 27'29"E (海南省儋州市)

623旅団

柳州

CJ-10A

西壮族自治区

626旅団

清遠

・DF-26

広東省

普寧

627旅団

・DF-17

广州市

深圳市

香港

Hong Kong

阳江市

湛江市

茂名市

海口市

儋州

・DF-21D

海南

一凡例一

★：旅団司令部

※：Google Mapを基に筆者作成

第624旅団(96724部隊)の司令部は、2021年9月の公開情報(「軍民共同で交響曲を創り上げ奏でる」『中国双擁網』2021/9/15、https://sy.mva.gov.cn/jyjl/202109/t20210915_51002.html)によれば、海南省儋州市に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、同司令部は、2016年3月19日時点では更地であり施設そのものが確認されないが、2017年頃着工し、2019年11月24日には概成している状況が確認される。

これに関連して、2018年の公開情報(「中国人民解放軍96724部隊医療器械調達項目落札・取引成立公告」『3618医療器械網』2018/2/10、<https://m.3618med.com/bid/zhongbiao-1482956.html>)には、96724部隊が広東省清遠市に所在するとあることから、同旅団は、清遠市から海南省儋州市の新たな施設に移動してきたことが考えられる。

また、温約瑟やCASIによれば、DF-21Dを装備しているとされるが、DF-21Dは2015年9月の軍事パレードで初披露されており、DF-21Dの装備に伴い移動してきた可能性が考えられる。

約19m

天幕(可能性有)

「DF-21D」(対艦ミサイル)



出典:中国海軍『万維論壇・軍事天地』2020/11/10

⑨ 626旅団(96726部隊)

旧825又は836旅団(96319部隊)

23° 40'58"N 113° 10'40"E
(広東省清遠市源潭鎮峽山工業園)

Google Earth(Airbus/CNES)

2022/12/28以降

第626旅団司令部



第626旅団(96726部隊)の司令部は、公開情報(「中国人民解放軍96726部隊訓練負傷防止・治療センター設備調達入札募集公告」『環球医療器械網』2019/4/8、<https://ylqx.qgyys.net/zhaobiao/view43401.htm>) から、広東省清遠市源潭鎮峽山工業園に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、同司令部は、2006年12月25日時点では更地であり施設そのものが確認できないが、2011年12月2日には概成している状況が確認された。温約瑟やCASIによればDF-26(核・通常弾兼備)を装備しているとされるが、DF-26は2015年9月の軍事パレードで初披露されており、新たな施設の建設は、DF-26の装備に伴うものであった可能性も考えられる。

⑩ 627旅団(96727部隊)

新編部隊

○ 自貢市

○ 重慶市

Google Earth(CNES/Airbus/) 2021/1/15以前

第627旅団司令部

頂深水村

車庫区

高層建屋

頂深水村

気象観測所

本部

車庫区

23° 24'42"N 116° 10'54"E
(広東省揭陽市普寧市英歌山工業園区)



⑪ 訓練連隊(96821部隊)

(旧96221部隊)

96821部隊

不明

621旅団
宜賓★

DF-31AG

四川省

第62基地司令部

楚雄

玉溪★

622旅団
DF-31A

雲南省

建水★
625旅団
DF-26

ラオス

一凡 例一

★: 旅団司令部

96821部隊司令部

増設
射撃場

本部

Google Earth(Airbus/ Maxar Technologies) 2023 /11/2

25° 02'31"N 101° 34'11"E
(雲南省楚雄市環城西路399号)

623旅団★柳州
CJ-10A

広西

626旅団
清遠★
DF-26

広東省

627旅団★
DF-17

普寧

潮州市
汕头市

深圳市
香港
Hong Kong

北海市

茂名市
湛江市

儋州★
624旅団
DF-21D

海南省

更地(2022年2月)

Google Earth(Maxar Technologies) 2022/2/27以前

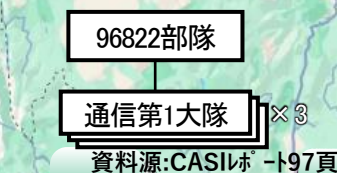
※: Google Mapを基に筆者作成

第62基地訓練連隊(96821部隊)の司令部は、公開情報(「中国人民解放軍96821部隊兵舎修繕企業落札公告」『電力安装工程網』2020/6/22、<https://www.chpie.com/g-dianlianhuang-9976166904--41103837.html>)から、雲南省楚雄市環城西路399号に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2022年2月27日時点で更地であった箇所において、2023年11月2日時点で不明物等が増設され、敷地が拡大して機能が増強されている状況が確認される。

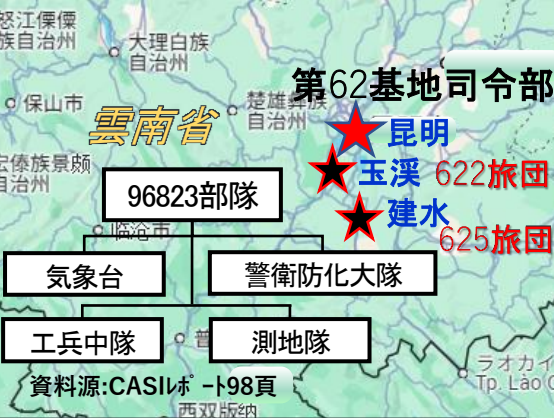
⑫ 通信連隊(96822部隊)

(旧96225部隊)



⑬ 作戦保障連隊(96823部隊)

(旧96226部隊)



⑭ 総合保障連隊(96824部隊)

(旧96222/96224部隊)



※: Google Mapを基に筆者作成

— 凡 例 —

★: 旅団司令部

第62基地の通信連隊(96822部隊)、作戦保障連隊(96823部隊)、総合保障連隊(96824部隊)の司令部は、CASIや公開情報(redtsai「ロケット軍」2019/12/2、https://redtsai.blogspot.com/2019/12/blog-post_91.html?m=1)によれば、雲南省昆明市官渡区阿拉街道公家口に所在することを確認できる。

⑮ 装検連隊(96032部隊)

旧903旅団(96223部隊)

・DF-31AG 621旅団
★宜賓

四川省

第62基地司令部

昆明

玉溪

622旅団

・DF-31A

雲南省

普洱市

西双版纳傣族自治州

ラオカイ
Tp. Lao Cai

ベトナム

ハノイ
Hà Nội

ハロン
Tp. Hạ Long

タンホア
Thanh Hóa

ビン
Tp. Vinh

Google

海南省

儋州

海口市

624旅団

・DF-21D

広西

河池市

柳州

623旅団

・CJ-10A

广西壮族自治区

南宁市

玉林市

北海市

湛江市

茂名市

阳江市

深圳市

香港

Hong Kong

広東省

普寧

潮州市

汕头市

626旅団

清遠

・DF-26

627旅団

・DF-17

増設

本部

装検連隊司令部

24° 23'56"N 103° 25'55"E
(雲南省弥勒市弥陽鎮吉山南路)

Google Earth(CNES/Airbus) 2023 /3/24以降

Google Earth(Geo Eye) 2012/10/26以前

更地(2012年)

資料源:CASIレポート100~101頁

サバーブ・コーン

※: Google Mapを基に筆者作成

ー凡 例ー

★: 旅団司令部

第62基地の装検(装備検査)連隊(96032部隊)の司令部は、CASIによれば、雲南省弥勒市弥陽鎮吉山南路に所在することを確認できる。Google Earthによれば、2012年10月26日時点で更地であった箇所において、2020年4月11日時点で施設が増設され、敷地が拡大し、機能が強化されている状況が確認された。

⑬ ロケット軍第63基地(96603部隊)の編成

旧55基地(旧96301部隊)



27° 34'39"N 110° 01'27"E (湖南省懷化市渭南市鶴城区迎豊東路)
Google Earth(Maxar Technologies)
2022/8/14



※: Google Mapを基に筆者作成



資料源:CASILポ 102頁

— 凡 例 —

★: 旅団司令部

南部戦区(広東省、江西チワン族自治区、海南省、雲南省、湖南省、貴州省、香港、マカオ)には、第62基地及び第63基地が所在する。この内、第63基地(96603部隊)は、第631旅団から第636旅団までを有する。

96603部隊の司令部は、公開情報(「懷化市育才学校」『百度百科』2024/12/31閲覧、<https://baike.baidu.com/item/怀化市·育才学校/717102>)によれば、湖南省懷化市渭南市鶴城区迎豊東路に所在することを確認できる。同じ敷地内には第62基地の通信連隊も所在する。

⑪ 631旅団(96731部隊)

旧803旅団(旧96311部隊)



第631旅団(96731部隊)の司令部は、CASIによれば、湖南省懷化市靖州縣二涼亭村に所在することを確認できる。

旧803旅団は、前述のとおり、中国初のDF-5(核弾頭)ミサイル旅団であり、2006年頃にDF-5Aに換装されたとされる。

Google Earthによれば、2003年5月30日時点では、当該旅団の施設は赤枠で囲った箇所のみであったが、その後、2014年2月には現在の施設が概成している状況が確認されたことから、2014年までには施設が大幅に拡大され、増強されたものとみられる。

温約瑟やCASIによればDF-5Bを装備しているとされるが、DF-5Bは2015年9月の軍事パレードで初披露されており、施設の大幅な増設は、このDF-5Bの装備に伴うものであったことが考えられる。

⑮ 632旅団(96732部隊)

旧805旅団(旧96313部隊)

27° 15'06"N 111° 23'09"E (湖南省邵陽市北塔区陳家橋郷光裕村)



第63基地司令部★懷化

・DF-5A 633旅団★会同

・DF-5B 631旅団★靖州

・DF-41 634旅団★通道

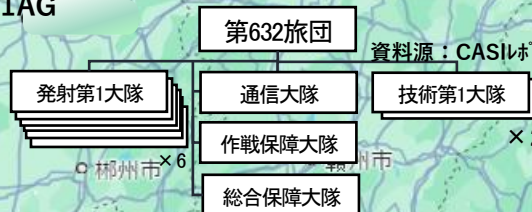
632旅団★邵陽
・DF-31AG

宜春★
635旅団
・CJ-10A

第632旅団司令部

Google Earth(Maxar Technologies) 2020/5/18以降

資料源：CASI 1:100,000



636旅団★韶關
・DF-16

広東省

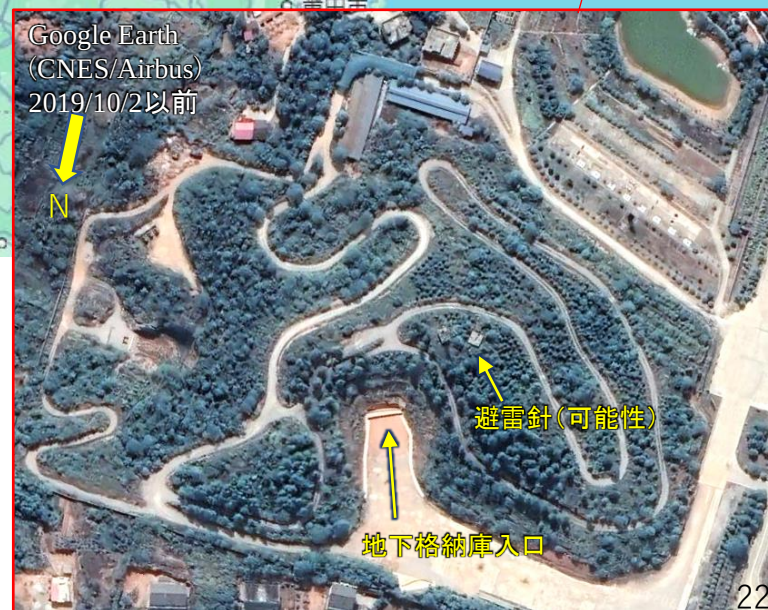
－凡 例－
★：旅団司令部

廣西
广西壮族自治区

※：Google Mapを基に筆者作成

第632旅団(96732部隊)の司令部は、公開情報(「中国人民解放軍96732部隊城歩ミャオ族自治県款溪攔壩工程入札結果公告」『智埔國際建設集团有限公司H.P.』2020/1/19、
(https://www.keypower8888.com/news_show.asp?fid=5&id=8251)から、湖南省邵陽市北塔区陳家橋郷光裕村に所在することを確認できる。

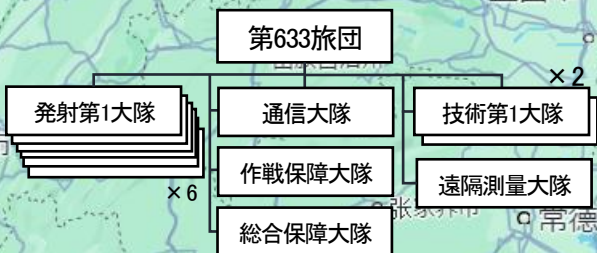
温約瑟によればDF-31(核弾頭)からDF-31AGへ換装されているとされるが、DF-31AGは2017年7月の軍事パレードで初披露されている。Google Earthによれば、2010年には更地であった場所において、2012年9月15日には工事が始まり、2015年10月20日には地下格納庫とみられる施設が概成している状況を確認でき、これらの増設はDF-31AGへの換装に伴うものであった可能性も考えられる。



①9 633旅団(96733部隊)

旧814旅団(旧96315部隊)

Google Earth(CNES/Airbus)
2021/9/22以降



資料源：CASIレポート107頁

第63基地司令部★懷化

・DF-5A 633旅団★会同

・DF-5B 631旅団★靖州

・DF-41 634旅団★通道

632旅団★邵陽
・DF-31AG

635旅団★宜春
・CJ-10A

636旅団★韶關
・DF-16

—凡 例—

★：旅団司令部

※：Google Mapを基に筆者作成

第633旅団司令部



本部

26° 53'31"N 109° 44'19"E(湖南省懷化市会同県林城鎮建設路5号)

サイロの中の「DF-5A」

第633旅団(96733部隊)の司令部は、公開情報(「96733部隊の専用器具計器の取引成立に係る公告」『医療入札募集調達網<https://www.120bid.com/view/830/fXdfPoEBH42ErLyknhU1.html>』)から、湖南省懷化市会同県林城鎮建設路5号に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2005年9月12日時点で既に現在の場所に所在していることが確認された。

温約瑟によればDF-5A(核弾頭)を装備しているとされるが、その地下サイロは、同司令部の敷地内ではなく、周辺に建設されていると考えられる。

出典：『新浪軍事』2018/7/10
<https://mil.news.sina.com.cn/jssd/2018-07-10/doc-ihfzkgp7062303.shtml>

② 634旅団(96734部隊)(1/2)

新編部隊



第634旅団(96734部隊) 司令部は、CASIによれば、湖南省懷化市通道県に所在する(参照:A)。

他方、公開情報(「静電気防止床の取引成立公告」『公安警察入札募集・調達網』<https://www.datauseful.com/bidding/detail/6614555643039378654>)によれば、湖南省懷化市通道侗族自治县棉花坪16号にも第634旅団が所在(参照:B)しており、これは同旅団の関連施設と考えられる。Google Earthによれば、当該施設は2014年2月1日時点では更地であったが、2015年に造成がなされ、2020年には建設が始まっており、2022年12月21日時点でもなお建設中とみられる。

② 634旅団 (96734部隊) (2/2)

新編部隊

恩施土家族
苗族自治州

更 地 (2020年5月)

Google Earth (CNES/Airbus) 2020/5/11以前

Google Earth (CNES/Airbus) 2022/11/15以前

地下入口

新規建設中の施設

車庫区

兵舎区

29° 37'26"N 114° 18'15"E
(湖北省咸寧市崇陽県黒橋村)

第63基地司令部 ★ 懷化

・ DF-5A 633旅団 ★ 会同

・ DF-5B 631旅団 ★ 靖州

・ DF-41 634旅団 ★ 通道

632旅団 ★ 邵陽

・ DF-31AG

635旅団 ★ 宜春

・ CJ-10A

一 凡 例 一

★ : 旅団司令部

636旅団 ★ 韶関

・ DF-16 ※ : Google Mapを基に筆者作成

Google Earth (Maxar Technologies)
2018/10/4以前

更 地
(2018年10月)

Google Earth (Maxar Technologies) 2022/5/4以前
新規建設中のサイロ

29° 34'19"N
114° 17'15"E
(湖北省黄冈市キ水県
清泉鎮桃樹窩村)

※ 構造物の下でサイロ建設中とみられる。

燃料タンク

※ サイロの部品の一部と考えられる。

※ サイロの部品の一部

② 635旅団 (96735部隊)

旧824旅団 (旧96317部隊)

(Google Earth (Maxar Technologies) 2022/11/2以降)

(Google Earth (Maxar Technologies) 2018/10/30以前)

更地
(2018年10月)

第635旅団司令部

本部

27° 53'09"N 114° 23'09"E (江西省宜春市袁州区工業園)

第63基地司令部

★ 懷化

・ DF-5A 633旅団

★ 会同

・ DF-5B 631旅団

★ 靖州

・ DF-41 634旅団

★ 通道

632旅団

★ 邵陽

・ DF-31AG

635旅団

・ CJ-10A

636旅団

★ 韶関

・ DF-16

広西
广西壮族自治区

広東省

第635旅団

発射第1大隊

通信大隊

作戦保障大隊

技術第1大隊

総合保障大隊

電抗大隊
(原文ママ、細部不明)

資料源：CASIレポート110頁

※：Google Mapを基に筆者作成

－ 凡 例 －

★：旅団司令部

第635旅団(96735部隊)の司令部は、公開情報(「中国人民解放軍96735部隊のセキュリティ設備調達募集」『江西省宜春市公共資源交易網政府調達』2019/1/15、<http://m.dav01.com/tender/2019/01/t945418.html>) から、江西省宜春市袁州区工業園に所在することを確認できる。

温約瑟によれば、同旅団はCJ-10A(核・通常弾兼備)を2番目に装備した旅団であり、CJ-10Aは2015年9月の軍事パレードで初披露されている。Google Earthによれば、2018年10月30日時点で更地であった箇所において、2020年10月11日時点で施設が増設され、敷地が拡大している状況が確認され、これらはCJ-10Aへの換装に伴うものである可能性が考えられる。

② 636旅団(96736部隊)

旧826旅団(旧96318部隊)

Google Earth(Maxar Technologies/
Landsat/Copernicus)2005/10/11以前

更地
(2005年10月)



8割程度完成
(2010年12月)

2010/12/17以前
Google Earth(Maxar Technologies)



第63基地司令部 ★ 懷化

・DF-5A 633旅団 ★ 会同

・DF-5B 631旅団 ★ 靖州

・DF-41 634旅団 ★ 通道

湖南省

632旅団
★ 邵陽
・DF-31AG

635旅団
★ 宜春
・CJ-10A

第636旅団

発射第1大隊

通信大隊

総合保障大隊

作戦保障大隊

技術大隊

資料源：CASIレポート111～112頁

636旅団
★ 韶関
・DF-16

広西
广西壮族自治区

広東省 广东



Google Earth (Airbus/Maxar Technologies) 2023/12/11

本部

第636旅団司令部

24° 45'14N 113° 40'47"E
(広東省韶関市曲江區)

— 凡 例 —

★ : 旅団司令部

※ : Google Mapを基に筆者作成

第636旅団(96736部隊)の司令部は、公開情報(『中国老区網』2022/8/2、<http://www.zhongguolaoqu.com/index.php?m=content&c=index&catid=17&id=71019>)から、広東省韶関市曲江區に所在することを確認できる。温約瑟やCASIによればDF-16(通常弾)を装備しており、温約瑟によれば最初にDF-16を装備した旅団という。DF-16は、2015年9月の軍事パレードで初披露されている。

Google Earthによれば、同司令部は、2005年10月11日時点では更地であり施設そのものが認められないが、2010年12月17日には8割程度完成といったところであり、2012年3月26日には車両が多数確認され運用されている状況が確認できたことから、2012年には当該場所へ移動してきたとみられ、これらはDF-16の装備に伴うものであった可能性が考えられる。

②③ 訓練連隊(96831部隊)

(旧96321部隊)

Google Earth(Maxar Technologies)2009/6/13以前



第63基地司令部

★懷化

・DF-5A 633旅団

★会同

・DF-5B 631旅団

★靖州

・DF-41 634旅団

★通道

湖南省

632旅団

★邵陽

・DF-31AG

635旅団

★宜春

・CJ-10A

96831部隊

不明

※ : Google Mapを基に筆者作成

— 凡 例 —

★ : 旅団司令部

636旅団

★韶関

・DF-16

広東省

広西

广西壮族自治区

桃園

臺北

臺中

臺灣

花蓮

高雄

臺東

第63基地訓練連隊(96831部隊)の司令部は、公開情報(『県駐屯96831部隊、無料で瑶郷への医療・医薬品を派遣』『洞口県人民政府H.P.』2018/3/6、<https://www.dongkou.gov.cn/dkxctyzx/gzdt/201803/3f173923e7af49cd9256104474bfde7d.shtml>) から、湖南省邵陽市洞口県に所在することを確認できる。
Google Earthによれば、2009年6月13日時点で更地であった箇所において、2013年11月17日時点で高層建屋等が増設され、2020年11月14日には新たなグラウンドも設置され、施設の機能が增強されている状況が確認できる。

②7 勤務連隊(96835部隊)

(旧96322部隊)

Google Earth(CNES/Airbus) 2022/12/14以降

勤務連隊司令部

鉄道の線路が直結

本部

26° 38'56"N 109° 41'07"E (湖南省懷化市苗族侗族自治県長山口郷)

第63基地司令部

・DF-5A
633旅団
洞口
会同
長山口
靖州
631旅団
通道
634旅団
・DF-41

632旅団
邵陽
・DF-31AG

宜春
635旅団
・CJ-10A

636旅団
韶関
・DF-16

第63基地勤務連隊(96835部隊)の司令部は、公開情報(redtsai「ロケット軍」2019/12/2)から、湖南省懷化市靖州苗族侗族自治県長山口郷に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、敷地の中まで鉄道の線路が引き込まれており、同勤務連隊は、主として輸送を担当しているとみられる。

※ : Google Mapを基に筆者作成

— 凡 例 —

★ : 旅団司令部

96835部隊

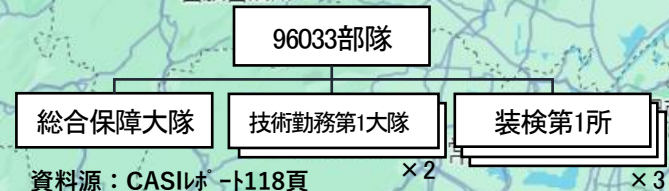
燃料補給第1大隊

鉄道輸送中隊

資料源 : CASIレポート117頁

② 装検連隊(96033部隊)

(旧905旅団96323部隊)



第63基地司令部



27° 32'16"N 109° 59'00"E (湖南省懷化市鶴城区天星東道天星広場向かい)



Google Earth(Maxar Technologies) 2022/8/14

第63基地装検(装備検査)連隊(96033部隊)の司令部は、公開情報(「断水通知(6月13日)』『懷化市人民政府H.P.』2019/6/13、
<http://huaihua.gov.cn/huaihua/c208770/201906/dcd114a6cf4fc2974a1dd0f2d93981.shtml>)から、湖南省懷化市鶴城区天星東路天星広場の向かい側に所在することを確認できる。

※：Google Mapを基に筆者作成

— 凡 例 —
 ★：旅団司令部

【研究者紹介】(防衛戦略研究室員)

博士(安全保障)。2015年3月、拓殖大学国際協力学科安全保障専攻博士課程修了、博士論文「中国人民 武装警察部隊に関する研究—武警部隊と解放軍の関係と将来像—」。専門は中国の準軍事組織(中国人民武装警察部隊、海警、海上民兵等)や中国の宇宙開発等。著書(共著)に2008年 茅原郁生「中国の軍事力—2020年の将来予測—」蒼蒼社。

本リサーチメモにおける見解は、航空自衛隊幹部学校航空研究センターにおける研究の一環として発表する執筆者個人のものであり、防衛省又は航空自衛隊の見解を表すものではありません。